



生活必需品を提供するアイキャンスタッフ

ミンダナオ島マラウィ武力衝突下での助け合いの精神

2017 年 5 月 23 日、ミンダナオ島南ラナオ州都マラウィにおいて、マウテ・グループと呼ばれる武装勢力とフィリピン国軍との交戦が勃発しました。現在も約 36 万人が、避難所や親戚等の家での生活を余儀なくされています。交戦は長期化しており、これまでの戦闘でマラウィ市内は壊滅的な被害を受けました。

「すぐ近くで戦闘を見て怯えながら、私は子どもを連れ、財布と持てる限りの衣服のみを持って、隣町に急いで避難しました」と、当時の経験を語ってくれたのは、戦闘が勃発した 2 日後から家族と一緒に避難所で生活しているマコッドさん（22 歳）。「避難所での生活は大変です。毎日 3 食を食べられるわけではなく、石鹸やタオル、食器やブランケット等の生活必需品や、1 歳の子どもの替えのおむつもありません。」

そのような状況を受け、私たちは、現地当局の統計に表れておらず、政府や他組織による物資が届いていない避難所の避難民を調査しました。そして、米、鰯の缶詰、砂糖、塩等の食糧、及び、石鹸、洗濯用石鹸、布、調理鍋、食器等の生活必需品の提供を開始し、ニーズに合わせておむつ等も提供しました。住民からは、「本当に感謝の気持ちでいっぱい。頂いたものは家族と大切に使います」「鍋やお皿をもらえるのは非常に助かる。これで早速料理したい」などの声が聞かれました。

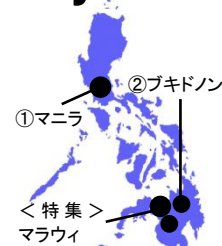
提供の際には、多くの避難民の方がボランティアで、トラックからの荷卸しや運搬、物資の梱包などの作業を手伝ってくれました。一緒に作業する中で、「早くマラウィに戻って家族と一緒に暮らしたい」「応援してくれる人がいると思うと、避難所での大変な生活も頑張ろうと思える」「自分の子どもたちに、このような紛争の体験はさせたくない」といった、人々の率直な気持ちや希望を聞くことができました。また、避難先の村の人々が、ただでさえ十分ではない自分たちの食糧を、マラウィから避難してきている人々に分かち合っている光景を目にしました。避難されている人々、受け入れている地域の人々、そして日本から寄付をしてくださる人々、みんなが助け合って生きていて、私たちの活動は、そのような人々の努力の上に、成り立っていることを感じています。

今後は、もっと多くの避難民に食料や物資を届けるとともに、子どもたちに学用品を届ける予定です。私たちは引き続き、パートナーとして応援してくださる皆さんの思いも、避難民の方々に届けていきます。



ICAN イリガン事務所
Ashraph Gani Mohamad
～プロフィール～
ミンダナオ州立大学マラウィ校卒業。2010 年にアイキャン入職後、ミンダナオ紛争地での平和構築事業やレイテ島台風被災地での緊急救援活動に従事。

Project Site



< 特集 >
マラウィ

●はアイキャン事業地
番号は裏面に対応

認定 NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今月はこちらの2つをご紹介します。

①路上の子どもたち

7月31日／マニラ(フィリピン)

路上の子どもたちへの保健教育



ドロップインセンターにおいて、看護師のスタッフが、「体に良いこと」に関する保健教育を行い、8名の子どもが参加しました。身なりを清潔に保つことの重要性や、それによって風邪を予防できること、逆に喫煙や麻薬の悪い影響について指導したところ、アイバン君(11歳)は、「今日習ったことをお母さんや妹にも教えたい」と話していました。

②先住民の子どもたち

7月24、25、26日／ブキドノン(フィリピン)

ミンダナオ先住民の子どもに学用品を提供



ミンダナオ島ブキドノン州の先住民の子ども400名に、鉛筆や通学かばん等、学用品一式を提供しました。5年生のマリーさんは、「今までは鉛筆一本しか持っていなかったの、ノートにすべてのことを書くことができていなかったし、かばんがなくて登下校の時に紙が雨で濡れてしまうことがあった。勉強に必要なものをセットでもらえたことが初めてなのでとても嬉しい。」と喜びを語りました。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今月はこちらの2つをご紹介します。

NGO 相談員事業

7月11日／岐阜

NGO 相談員出張サービスで講演

岐阜県立池田高等学校の生徒約480名に対し、「国際貢献とキャリア教育」というテーマで講演を行いました。路上の子どもや、紛争地や難民キャンプに暮らす人々が置かれた過酷な現状と課題のほか、NGO 職員の仕事のやりがいや大変さも伝えました。参加者からは、「現状を変えるためにできることをやらなければいけないと感じた」等の感想があり、その後 NGO への就職の仕方などの質問も受けました。



MY アイキャン育成事業

7月15日／愛知

高校生の1日事務所訪問

愛知県立千種高等学校の生徒4名が日本事務局を1日訪問しました。アイキャンの活動についての説明の後、午後からの街頭募金に向けて募金箱やチラシの準備をし、実際に募金活動を行いました。後日参加者から「あまり知らなかったイエメン、ジブチのことを知ることができ、募金活動にも参加したことで、その後テレビや新聞で意識して読むようになりました」などのコメントを頂きました。



今月の Announcement

チャリティ語学教室「スマイルチケット」受講生大募集中！！

日本事務局(名古屋)で運営しているチャリティ語学教室「スマイルチケット」に、7月から新しい講師が加わりました。「授業が楽しい」と、生徒さんから好評です。授業料が割引になる「友達割り」も引き続き実施しています。英語またはタガログ語の勉強に関心のある方、ぜひお問い合わせください。



*スマイルチケットお問い合わせメールアドレス: smile_ticket@ican.or.jp

今月の Media

7月16日 BS-TBS 「週刊報道 LIFE」 マラウィの状況や活動

7月19日 NHK 総合 「ほっとイブニング」 イエメンの紛争と募金

今月の ICAN 人

©加藤さん、とても温かいメッセージをありがとうございます！

マンスリーパートナー 加藤直人さん

「何かを始めるだけでなく、継続して応援したい」

インタビュー:8月8日

私は、2010年に仕事で初めてフィリピンを訪れた際、路上で男の子に物乞いをされました。同行した人に「いくら渡しても何も解決しない」と言われ、納得しながらも、何もできない自分に苛立ち、「自分に何ができる？」と自問自答を繰り返して帰国しました。「まずはフィリピンという国を知らなければ」と思い、2011年夏と2012年春にアイキャンのスタディーツアーに参加しました。

現地では、過酷な生活環境の中でも強くキラキラした目をした子どもたちが、知らない日本人に笑顔を向けてくれ、それだけで、アイキャンの事業とスタッフへの信頼関係の深さを感じました。それをとにかく崩さないよう、学んだことに対して何ができるか必死で考えました。また、フェアトレードの生産現場を実際に見て、生産者の顔や印象を感じることができたのは、スタディーツアーならではの貴重な体験でした。そして、体験することで、どこか他人事から「自分事」になり、アイキャンの事業の意味や意義が理解できました。

帰国後は、「私にできること」「私にしかできないこと」を考えるようになり、常に「行動するための思考」に変化したと思います。無理は続かないが、始めなければ何も変わらない、小さく行動してみようと、継続して応援する方法を選択した結果、マンスリーパートナーになりました。今後は、毎月の寄付だけでなく、自分の経験やノウハウも活かしたいと考えています。



【編集者から一言】 ミンダナオ島マラウィの武力衝突から逃れた避難民への物資提供のため、ご寄付を募っています。詳細はHPをご覧ください。